

地域で共につながるひきこもりピアサポート活動のための全国交流研修会の実施

特定非営利活動法人 法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-16-12-301

助成事業の概要

全国推定146万人と言われる「ひきこもり」状態の本人とその家族は、世間体や社会的偏見から、自らを社会的孤立に追い込んでしまうことが大きな課題となっている。社会の無理解や、自己責任、家族責任という偏見から、困っていても相談を諦めている本人や家族も少なくない。

そんな中、似たような経験をもつひきこもりピアサポーター（本人・家族）とのかかわりは、経験したのだからこそ分かち合える力や、つながりあえる力を持っている。自らの痛みや苦しみを語り合い、孤立の渦中にいる本人や家族に対して「あなたはひとりじゃない」と伝え、伴走しながら共に胸を張って生きていく力が強みである。

本事業では、本人や家族、一般・支援者の方が、ともに学び合い、語り、つながり、理解し合うことを目的とした交流研修会を、11月の全国大会・石川の前日に実施した。

研修会を通して、ひきこもりへの社会的理解を深めるとともに、共につながり、共に生き続ける地域共生力の向上のために何が必要かを社会に問いかける場となった。

事業の成果

5人ずつの経験者ピアサポーターと家族ピアサポーターで、ファシリテーターとテーマオーナーを担当して、(1) 今どうしてる？ (2) ひきこもりさんの予防について (3) あなたのわたしの元気と生きづらさを交換しよう (4) 今の私からひ

きこもっていた頃の私へインタビュー (5) 「格差」違いを感じる?? の5つのグループに分かれて交流した。途中でグループ交代を入れながら、関心のあるテーマのグループに参加した。参加者は、経験者ピアサポーター、家族ピアサポーター、支援機関等担当者などであった。

グループの中では、テーマオーナーの語りに耳を傾け、自分の経験と重ね合わせたり、自分がかかわっている当事者に思いを馳せたりしながら、自分の言葉を紡いでいく。グループメンバーはその語りに耳を傾けながら、自分の経験と重ねていく。そんな時間は、自分の中の記憶の底に沈み込ませていた思いに響いて深まっていく。

そうやって語り合うこと、聴き合うことで得られる「ひとりじゃない」という心強さは、なにもものにも代えがたいあたたかい癒しとなる。

こうした交流で互いに思いを交わす経験によって、自らの尊厳を取り戻し、孤立しないで「つながり続ける」活動の意義を確認し、各自が自信を取り戻していくことができた。ピアサポーター自身にとっても、他の参加者にとっても、こんな交流の場は、自身の継続的な活動への意欲向上につながる。

同時に、それぞれの活動母体である地域家族会に帰ったときに、ピアサポート活動の活性化を呼び起こし、家族会自体の活性化及び持続可能性につながっていくことが、大きな成果としてある。

それは、ひきこもりへの偏見や、本人家族の心情理解、かかわり方や、つながりの持ち方についての理解とヒントを得ることにもなり、支援の幅が広がることが、期待できる。今後は、さらに問

題解決型の支援から「つながり続ける伴走型支援」への理解が進むことで、性急に成果を上げることがを求めて本人家族を追い詰めること（支援途絶）が少なくなることが期待される。

■ 成果の広報・公表

参加者がピアサポーターと交流する機会を得ることで、ひきこもりへの偏見や、本人家族の心情理解、かかわり方や、つながりの持ち方についての理解とヒントを得ることができる。

特に、各自治体では、世代を問わず対応できる市町村単位のワンストップ窓口の整備を進めているが、窓口はあっても支援につなげられない、支援につながっても、支援者の対応によって途絶してしまう人が4割以上という当会の調査結果が出ている。本研修会への参加によって、ひきこもりへの正しい理解をもった支援者の育成にもつながる。

さらに問題解決型の支援から「つながり続ける伴走型支援」への理解が進むことで、性急に成果を上げることがを求めて本人家族を追い詰めること（支援途絶）が、支援にあたる立場の方々の中でも、意識の向上によって、途絶が少なくなること期待できる。

研修会の様子は、支部宛の報告書などで、支部会員、ピアサポーターを通して、積極的に発信していく。それが、社会の中でひきこもりへの正しい理解の促進に期待している。

■ 今後の展開

これまで、ひきこもりピアサポーターは、全国各地域の家族会を活動母体としてきた。しかし、地域によって、活動の幅も、支援の状況も大きく異なり、活動に制約があったり、個々人の研鑽の場も難しかったりと、どうしても地域差が生じて

いた。

そこで、全国のピアサポーター同士のネットワーク化をはかり、支部だけにとどまらず、自らのニーズに合った研修の機会などを。自分たち自信で作りだし、また、紹介し合い、参加できるような、全国連絡協議会(仮)の発足につなげていきたい。

それとともに、個々人の活動について学び、活動の新たな企画のヒントにしたり、地域を越えた活動を計画したりできるしくみにしていきたい。それが、今後の情報交換や困難な状況の共有について気軽に相談し合える顔の見えるネットワークづくりに寄与できる。

本研修会での学び全体が、全国での家族会における地域活動及び、自治体、支援機関との協働を模索し、今後の関係づくりに生かすことができると考えられる。